

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 101-8110
 住 所 東京都千代田区神田神保町1丁目105番地
 氏 名 旭化成ケミカルズ株式会社
 代表取締役社長 小林 友二 印
 (代理人) 川崎製造所 所長 室園康博
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	旭化成ケミカルズ株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区夜光1丁目3番1号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	石油化学系基礎製品製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		97,907 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		3,326 t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	環境安全部
		所在地	神奈川県川崎市川崎区夜光1丁目3番1号
		電話番号	044-271-2102
		FAX番号	044-271-2115
		メールアドレス	0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成25年度 ～ 平成27年度 (報告年度26年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 197,663 t-CO ₂ (調) 193,038	(実) 198,241 t-CO ₂ (調) 192,492	(実) 186,668 t-CO ₂ (調) 181,390	(実) t-CO ₂ (調)	(実) 194,773 t-CO ₂
削減率		(実) -0.3 % (調) 0.3	(実) 5.6 % (調) 6.0	(実) % (調)	(実) 1.5 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	—	単位	—	—	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	100.0	103.6	96.23		98.53
削減率		-3.6 %	3.8 %	%	1.5 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	<ul style="list-style-type: none"> 蒸気発生部場であるアクリロニトリルプラントでの減産による外部受入量増により対基準年度温室効果ガス排出量が0.3%増加した。 生産量は対基準年度に対し若干低くなったが、上記理由のために温室効果ガス排出量が増加し、原単位としては3.6%の増加となった。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> 国内石油化学事業の基盤強化の一環としてアクリロニトリルプラントを8月に停止した。同プラント運転中は低稼働のため外部蒸気受入量が増加し、温室効果ガス排出量は増加していたが、停止により非効率な運転が解消され、温室効果ガス排出量は5.6%減少した。 生産量は第1年度より若干増加したが、対基準年度に対し低い状態であった。しかし上記理由の為原単位としては3.8%の減となった。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<p><全社目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス削減：2005年度基準で、2020年10%削減 → 2014年度31.1%削減 エネルギー原単位低減：中長期的にみて、年平均1%以上低減に努める LCA視点でのCO₂削減貢献：2020年度8.0 → 2014年度7.5 産業廃棄物の最終処分率0.3%以下（対発生量）の継続 → 2014年度0.4%で目標未達
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	ISO14001マネジメントシステムに基づき、製造所の実施計画及び各部場の実施計画を定め、温室効果ガス排出量の削減に関する対策を実施する。 (1) MMAモノマー製造プラント廃ガス燃焼工程の排ガスからの熱回収を行っているが、さらに熱回収を強化するためにボイラーを設置して蒸気使用量を低減することにより温室効果ガスを削減する。 (2) SBラテックス製造プラントのストリッピング工程の廃蒸気の熱を回収し、濃縮工程で使用する温水の熱源として再利用し、蒸気使用量を低減することにより温室効果ガスを削減する。
	第1年度	(1) MMAモノマー製造プラント廃ガス燃焼工程の熱回収強化の設備提案を行った。なお、内容の変更によりCO2削減量は計画の2320tから508tに変更となった。 (2) SBラテックス製造プラントストリッピング工程の排熱回収の検討を行った。 (3) ボイラーのミニマム運転を行い、川崎スチームネットからの買蒸受入を増やした。 (4) MMAモノマー製造プラントTBA分解工程の蒸気回収設備を設置した (CO2削減459t)。
	第2年度	(1) MMAモノマー製造プラント廃ガス燃焼工程の熱回収強化の設備検討を引き続き実施している。 (2) SBラテックス製造プラントストリッピング工程の排熱回収を実施した。 (3) MMAモノマー製造プラントTBA分解工程の蒸気回収設備が11月より稼働した。 (4) MMAモノマー製造プラントのスチームドレンの回収を計画している。
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	・なし
第1年度	・「アサクリン」の低CO2川崎ブランド及び川崎メカニズム認証、平成25年度域外貢献量は1,180t-CO2
第2年度	・「アサクリン」の低CO2川崎ブランド及び川崎メカニズム認証、平成26年度域外貢献量は1,170t-CO2
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさきコンパクトへの参加 ・エコドライブ要請の実施 ・廃棄物の排出量の把握及び削減 ・荷主CO2排出量削減の推進 ・グリーン購入の推進 ・家庭での温室効果ガス抑制の啓蒙活動として、「EcoZouさんClub」への登録推進
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさきコンパクトへの参加 ・エコドライブ要請の実施 → 2013年度要請件数：257件 ・廃棄物の排出量の把握及び削減 ・荷主CO2排出量削減の推進 ・グリーン購入の推進 ・節電コンテストの実施
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさきコンパクトへの参加 ・エコドライブ要請の実施 → 2014年度要請件数：193件 ・廃棄物の排出量の把握及び削減 ・荷主CO₂排出量削減の推進 ・グリーン購入の推進 ・節電コンテストの実施
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	208,401	t-CO ₂
(調)	205,446	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
旭化成ケミカルズ(株)川崎製造所	神奈川県 川崎市 川崎区 夜光1-3-1	1631	石油化学系基礎製品製造業	199,348 t-CO ₂
旭化成ケミカルズ(株)川崎製造所 アクリル樹脂製造部	神奈川県 川崎市 川崎区 浮島10番9号	1635	プラスチック製造業	9,053 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500kl 未満	
300~400kl 未満	
200~300kl 未満	
100~200kl 未満	
100kl 未満	

(3) 事業所等单位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
旭化成ケミカルズ(株)川崎製造所	神奈川県 川崎市 川崎区 夜光1-3-1	1631	石油化学系基礎製品製造業	199,348 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	1
------	---